

眼鏡装用による内斜視のまとめ

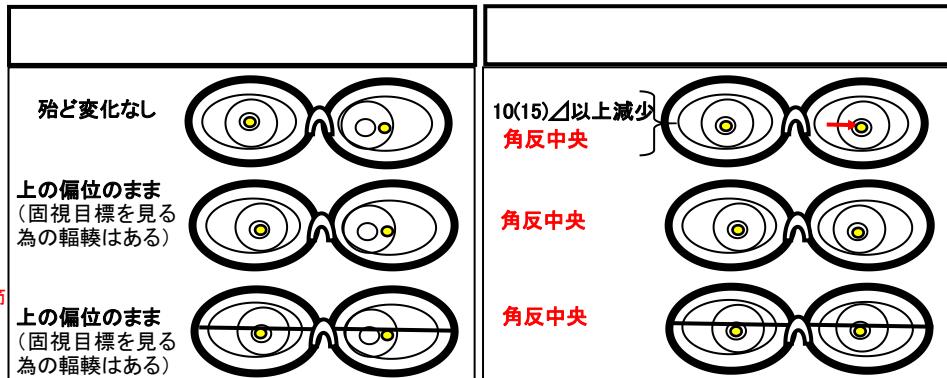
参考)中川喬:視能矯正学改訂第2版P260~261



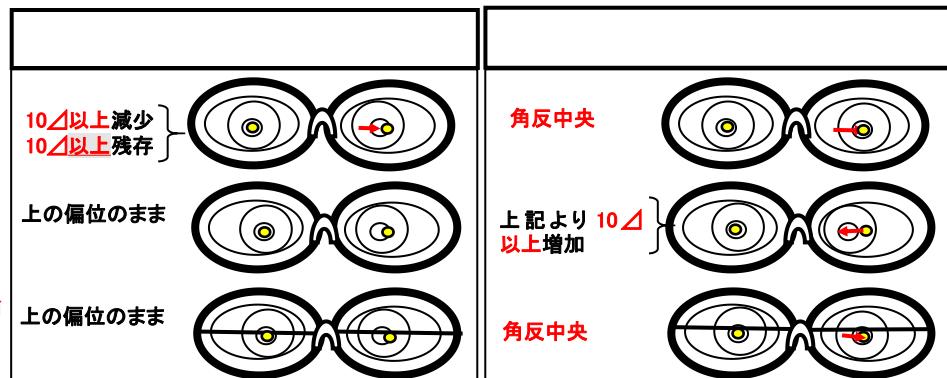
空欄に内斜視の種類を記入！

例) 左眼内斜視

遠見	正視状態 完全矯正レンズ装用
近見	+3D 調節 完全矯正レンズ装用
近見	近見で無調節 +3.0D 付加レンズ装用

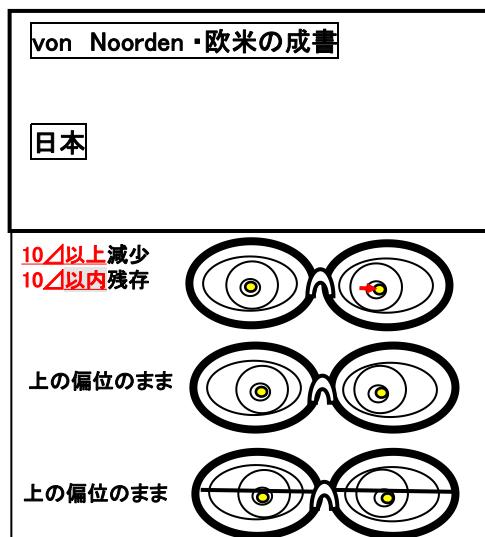


遠見	完全矯正レンズ装用
近見	+3D 調節 完全矯正レンズ装用
近見	近見で無調節 +3.0D 付加レンズ装用



定義が曖昧なもの

遠見	完全矯正レンズ装用
近見	+3D 調節 完全矯正レンズ装用
近見	近見で無調節 +3.0D 付加レンズ装用



眼鏡装用による内斜視のまとめ

参考)中川喬:視能矯正学改訂第2版 P260~261

解答



遠視がある場合は10~15°減少しても高AC/A比の可能性があり遠近ともほぼ同量減少し、眼位が改善するかで判断すること。

例)左眼内斜視

遠見	正視状態 完全矯正レンズ装用
近見	+3D調節 完全矯正レンズ装用
近見	近見で無調節 +3.0D付加レンズ装用

非調節性内斜視(基礎型など)

殆ど変化なし



上の偏位のまま
(固視目標を見る
為の輻輳はある)



上の偏位のまま
(固視目標を見る
為の輻輳はある)



屈折性調節性内斜視(von Noorden)

10(15)°以上減少
角反中央



角反中央



角反中央



近見は輻輳するので(輻輳角分)遠見より見かけ上、内斜してプリズム量が
増加すると勘違いする人がいるが、近見の視標を見ている視線からの偏位と
なるので、偏位量は変わらずAPCTの量としては理論上変化はない。

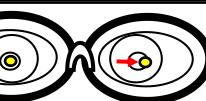


高AC/A比ならば、遠視があって内斜視となっ
ていた分は完全矯正レンズで解消するはず。

遠見	完全矯正レンズ装用
近見	+3D調節 完全矯正レンズ装用
近見	近見で無調節 +3.0D付加レンズ装用

部分調節性内斜視(主流)

10°以上減少
10°以上残存



上の偏位のまま



上の偏位のまま



非屈折性調節性内斜視(von Noorden)

角反中央



上記より10°
以上増加



角反中央



定義が曖昧なもの



この要素がないと調節因子ではない。例)15°で眼鏡にて9°になった場合は調節性とは言えない。

遠見	完全矯正レンズ装用
近見	+3D調節 完全矯正レンズ装用
近見	近見で無調節 +3.0D付加レンズ装用

von Noorden・欧米の成書

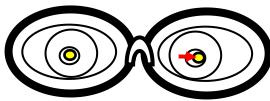
屈折性調節性又は準正位又は微小斜視

日本

屈折性調節性?部分調節性?

欧米は大まか

10°以上減少
10°以内残存



上の偏位のまま



上の偏位のまま



近見の所見から少なくとも高
AC/A比ではないので、非屈
折性調節性内斜視ではない。